

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4070200854		
法人名	医療法人 若愛会		
事業所名	グループホーム けやきの杜		
所在地 (電話番号)	〒808-0004 北九州市若松区西小石町17-27 (電話) 093-751-1020		
評価機関名	財団法人 福岡県メディカルセンター		
所在地	福岡市博多区博多駅南2丁目9番30号		
訪問調査日	平成21年2月12日	評価確定日	平成21年3月12日

【情報提供票より】(H21年1月19日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成16年4月1日		
ユニット数	3 ユニット	利用定員数計	27 人
職員数	23 人	常勤 14人, 非常勤 9人, 常勤換算 4.3 人	

(2) 建物概要

建物形態	併設 / 単独		新築 / 改築
建物構造	鉄筋コンクリート 造り		
	3 階建ての	1 階 ~	3 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	39,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	有 (円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 (300,000円) 無	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり	1,400 円		

(4) 利用者の概要 (1月19日現在)

利用者人数	26 名	男性	2 名	女性	24 名
要介護1	5 名	要介護2	8 名		
要介護3	7 名	要介護4	5 名		
要介護5	1 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 81 歳	最低	71 歳	最高	98 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	戸畑共立病院、若戸病院、田中歯科医院
---------	--------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

開設時に職員の意見をもとに検討を積み重ねて作られた理念を、職員は具体的に理解し、心に寄り添った介護ができています。入居前の細かい情報収集によりアセスメントをとり、介護計画は入居者の生活歴、入居者・家族の意向・意見まで踏まえた上で、日中・夜間帯に分けて作成し、逐次評価・検討しており、ケアサービス提供のきめ細かさを感じる。建物の外観は近代的で設備も整っている。内部の生活空間は木を多く使用した家庭的な雰囲気、大きな窓からは自然光が入り、温もりのある明るい空間である。地域との相互交流が積極的に行われており、地域密着型としての役割が果たしているホームである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回評価では、ホームへの入り口が分かりにくいとのことであったが、見やすい色の看板を玄関に設置し、分かりやすく改善されている。前回評価での改善課題だけでなく、家族アンケートの意見についても職員全体で話し合い、改善して行こうという取り組みが伺える。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価は管理者や特定の職員が行うのではなく、毎年違う職員が行うなど、職員全体で取り組んでいる。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)</p> <p>2ヶ月に1回、定期的に開催し、民生委員、地域包括支援センター、利用者家族、近隣住民が参加している。入居者の状況や行事の報告、細かいヒヤリハット事例、事故事例、相談・苦情の内容などを報告し、討議している。出された意見等をもとに職員で話し合い、サービスの向上に活かしている。</p>
重点項目	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部8,9)</p> <p>各階に苦情ボックスを設置している。その他、現場で直接受けた意見等に対しても、その場で消えてしまわないように報告が行われており、内容については運営推進会議で討議し、その内容を広報誌へ掲載したり、掲示するなどして職員教育を心がけている。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>地域のお祭り、敬老会、学校行事へ積極的に参加している。幼稚園児の訪問、小・中学生の職場体験、ボランティアの受け入れも多く行われている。地域へは広報誌を配布し、近隣住民が運営推進会議へ参加したり、切花の差し入れがあるなど、地域との交流が持てていることが分かる。</p>

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	開設時に職員の意見をもとに検討を積み重ねて作られており、地域密着型としての独自の理念が作られている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者は職員に対して、日常的に理念に沿った支援ができるように説明・指導をしている。また、日常的に目に入る場所(玄関・食堂・職員トイレ等)に掲示したり、名刺やパンフレットにも掲載し、理念の共有・実践に取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域のお祭り、敬老会、学校行事へ積極的に参加している。幼稚園児の訪問、小・中学生の職場体験、ボランティアの受け入れも多く行われている。地域へは広報誌を配布し、近隣住民が運営推進会議へ参加したり、切花の差し入れがあるなど、地域との交流が持てていることが分かる。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価については職員へ配布し、その中から出てきた課題について職員会議を行い、具体的な改善に取り組んでいる。自己評価についても、毎年違う職員にってもらうなどして、職員全体で取り組んでいる様子が伺える。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回、定期的に関催し、民生委員、地域包括支援センター、利用者家族、近隣住民が参加している。入居者の状況や行事の報告、細かいヒヤリハット事例、事故事例、相談・苦情の内容などを報告し、討議している。出された意見等をもとに職員で話し合い、サービスの向上に活かしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市が開催する研修会に積極的に参加している。また、市の職員を講師として、法人内の勉強会へ招いたりするなど、連携・情報収集を積極的に行い、サービスの向上に取り組んでいる。		
7	10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	管理者・職員は積極的に研修に参加し、制度を学んでいる。実際に成年後見制度を活用している入居者が居り、今後必要になりそうな入居者に関しては、職員で情報を共有し、必要な支援が行えるように支援している。		
4. 理念を実践するための体制					
8	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	家族へは定期的(毎月)に写真付の手紙を郵送している。その中に、看護師、担当介護職員のそれぞれの見方からの報告がされている。事故等についても細かく報告されている。個々に合わせた報告は電話や面会時などに行われている。		
9	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	各階に苦情ボックスを設置している。その他、現場で直接受けた意見等に対しても、その場で消えてしまわないように報告が行われており、内容については運営推進会議で討議し、その内容を広報誌へ掲載したり、掲示するなどして、職員教育を心がけている。		
10	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	計画作成担当者以外は各階を兼務しているため、入居者と顔なじみになっており、離職に伴うダメージを防いでいる。職員の離職に関しては、法人全体で検討するなどの努力をしている。		
5. 人材の育成と支援					
11	19	人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	年齢層は、20～60歳代と幅広く、男女とも勤務している。資格取得や研修会の参加については積極的に支援が行われている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
12	20	人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	法人内外で勉強会を行っている。特に入居者への関わり方に目を向け、現場でもその都度教育を行っている。		
13	21	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修会の参加を積極的に行っている。新人・中途採用の職員に対しては、基本介護チェック表を用いて指導を行っている。		
14	22	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	福岡県グループホーム協議会への参加により、同業者と交流する機会を持ち、サービスの向上に努めている。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に相談員によるアセスメントがとられ、本人の希望を汲み取り、ホーム内のショートステイ、デイサービスを利用していただくなどして、徐々に場の雰囲気に慣れ、職員等とも馴染みの関係を作り、様子を見て入居時期を決定している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は何でも手伝うのではなく、できること、できないことをよく見極め、一緒に考えたり、教えていただくなどして、共に楽しみ、支え合う姿勢で関わっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1.一人ひとりの把握					
17	35	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時に細かい情報収集を行い、「生活歴」用紙に記入することで、希望や意向についてできる限り細かく把握しようとしている。センター方式を取り入れることにより、さらに細かいアセスメントができるようになっている。		
2.本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	センター方式を取り入れることで、入居者、入居者家族、他職種から情報収集を行い、職員会議の中でも意見を出し合うことにより、様々な角度からの意見やアイデアを盛り込んだ介護計画を作成している。		
19	39	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	1ヶ月に1回モニタリングを行っており、必要があればその都度見直しを行っている。変化がない場合も、介護保険更新に合わせて(最大1年)見直しを行っている。		
3.多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
20	41	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	入居前より、相談員が、本人、家族の相談に応じ、在宅サービスの支援、相談等を行っている。入居後もできるだけ要望に柔軟に対応し、通院、介護タクシーの利用などの支援をしている。		
4.本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
21	45	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者、家族の希望するかかりつけ医への通院や往診が受けられるように支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
22	49	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	現在まで看取りの経験は無いが、入居時に重要事項説明書により、看取りの際の対応、手順について説明している。看取り指針・同意書も明文化されており、職員は方針を共有している。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
23	52	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	「職員の心得」として、プライバシーの確保について指導を行い、研修会へも積極的に参加している。記録等は事務所内の鍵のかかる一定の場所に保管されている。		
24	54	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	毎日の会話などから、一人ひとりの意向を汲み取り、その日をどう過ごしたいかについて話し合い、実現できるように柔軟に対応し、支援している。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	56	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	栄養士が一人ひとりの健康状態に合わせて献立を立てている。嗜好の変化や身体の状態の変化に応じて、献立や調理法を変更している。準備や片付けは無理強いにならないように状況を側で見守り、さりげない声かけや手助けをしている。		
26	59	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入居者、家族、主治医の意見を聞き、入浴の回数や時間を決定している。広く明るい浴室で、機械浴や床暖房など、設備も充実している。入浴拒否の方に対して、タイミングを見極める努力をしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	アセスメントより興味があること(書写、散歩、計算、色塗りなど)や役割としてできることを介護計画に取り入れ、職員で情報を共有し、職員主体にならないようにしている。職員は入居者の力を活かした役割を理解し、さりげなく支援しており、共用空間には入居者によって描かれた絵手紙が飾られたり、生け花が得意な入居者が近隣住民の差し入れの花を生けて飾るなどしている。		
28	63	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	一人ひとりの意向を介護計画に盛り込んでおり、その日の希望に対してでもできる限り個別や少人数の外出ができるように努力している。ホーム内に広く明るいテラスがあり、体力的に困難な入居者も、気候の良い時にはティータイムを楽しめるようになっている。		日頃のケアの中で、限られた人員で、できる限りの支援している様子が伺えるが、一人ひとりの希望全てに沿うことができないのが現状である。来年度、行事委員会を発足する計画があるとのことである。更なる取り組みに期待する。
(4) 安心と安全を支える支援					
29	68	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は鍵をかけず、チャイムや目視により職員が対処している。外出しようとする時はさりげなく声かけを行ったり、一緒について行くなどして対処している。		
30	73	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回、消防職員の立会いのもと、避難訓練を実施している。訓練は夜間を想定し、参加できる入居者は参加している。スプリンクラー、自家発電など設備も整っている。また、災害に備え、食料などの備蓄がされている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士が一人ひとりの健康状態に合わせて献立を立てており、バランスの良いメニューである。水分、食事は毎回チェックされ、栄養摂取、水分確保の支援が行われている。治療食にも対応しており、健康状態に合わせて適切な食事が摂れている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
32	83	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	全体的に木を使用し、温もりを感じる造りとなっている。窓も大きく、自然光がよく入り、開放的で明るい空間である。加湿器、空気清浄機で温度や湿度が程よく保たれている。季節の花が飾られたり、雛壇が飾られたり、季節感をとり入れた空間となっている。掃除が行き届いており、清潔感が感じられる。		
33	85	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	どの居室も広く、使い慣れた家具を多く入れても狭さを感じないほど、十分なスペースがある。		